



鎌ヶ谷市



市民活動推進センターだより

発行:鎌ヶ谷市市民活動推進センター

発行月:平成27年2月

No.33



輝く人がいるから、まちが輝く

地域づくりコーディネーター養成講座特集号

地域づくりコーディネーターってなんだろう？

輝く人がいるから、まちが輝く。まちづくりに必要なのは、確かな知識と行動力です。

地域づくりコーディネーターとは、地域の課題や魅力を「見つけて」、「聞く」ことや、さまざまな人々を「つないで」、市民活動をサポートする人材です。

そのような市民活動を支える人材を育成するため、今年も、昨年に引き続き講座を行っています。

今回の市民活動推進センターだよりでは、現在までに行われた2回の講座を振り返り、これまでに学んだことを再確認してみます。

このだよりを手にとった皆様も、ぜひこれを機に、地域づくりコーディネーターを目指してみませんか。

「地域づくりコーディネーター養成講座2014」

☆ 第1回 テーマ 「会議の仕方と場づくり」

講師 NPO法人れんげ舎 代表 ^{おさだ}長田 ^{てるちか}英史さん

平成26年11月3日（月・祝） まなびいプラザ

市民活動というと、外へ出て様々な活動をしている印象ではありませんか？

でも実を言うと、市民活動をしている団体にとって、会議やミーティングで物事を決めることはたくさんあり、「みんなで納得して意思決定すること」はとても重要なポイントでもあるのです。

第1回目の講座では、本当の意味での民主的な会議やミーティングのやり方や、会議メンバーの参加意識や組織の雰囲気を活性化させる「場づくり」の手法を学びました。

長田さんについてもっと知りたい方はこちら（れんげ舎メルマガ）→<http://bazukuri.jp>

QRコード→



Point① 会議とは「集団の意思決定の場」！

民主的な会議とは「集団の意思決定の場」と、長田さんは唱えます。文字にすると当たり前のように思いますよね？

でも、例えば、話し合っているのは数人のみで、残りの人達は違う議題について話していたり、会議中は意見を出さずに、会議が終わった後に「あれは違う」と言い出すなんていうこと、よくありませんか？

これらは、「会議とは何か？」を知らないことから起きてしまう混乱なのです。



Point② 会議のプロセスは全部で5つ！

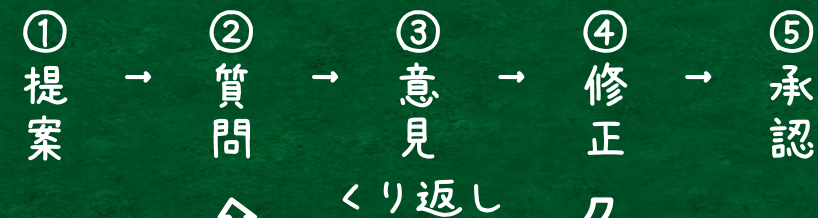
長田さんから学んだ、民主的な会議に必要な段取りを、右のページにまとめてみました。

ここで大事なのは、これを読んでいるあなただけがこのプロセスを知っている、意味がないということです。

会議に参加する全員、ひいては、あなたの所属する組織全体がこのプロセスを理解して会議に臨むことが大切なのです。



会議の基本プロセス



①提案～何のために、何をしたいのか、その目的と方法を全体に伝える～

- ・提案に必要なのは、「目的」とそれを達成するための「方法」。
- ・小さな提案でも、提案レジュメを作ることが重要！
- ・「目的」は「やりたいから！」で十分。

提案レジュメの例は
次のページにあります！

②質問～提案者の気持ちや提案内容を、全員が完全に理解する～

- ・提案内容を完全に理解するためのプロセス。
- ・提案内容が良くわからなければ必ず質問する。
- ・わからないままにはしない→組織へ定着させる！



③意見～反対や賛成など、提案に対するあなたの意見を表明する（リアクション）～

- ・はじめに、「目的」に対して賛成できるかの意見を言う。理由も添えて！
- ・次に「方法」についての意見を言う。
- ・先に「目的」の部分を決めることで、ブレずに進行ができる。

④修正～議論の結果、提案が修正された場合、修正箇所を明文化して確認する～

- ・修正があることは、悪いことではない。より良い方向に進んだ証！
- ・わかっていても、文字にして確認する！
- ・修正があったら、必ず「②質問」へ戻る！

⑤承認～全体の意思をひとつに！「全員納得」という会議のゴール～

- ・質問も意見も出ないことを確認→承認を決定する。
- ・一度承認したら、勝手に変更はできない。
- ・変更をしたければ、次の会議で提案する！

①～⑤を組織全員が理解することが重要！

提案レジュメの例



会議の名称を入れます。

〇〇会全体会議

【提案】市民活動フェスタへの参加について

2015年1月20日

提案者：鎌ヶ谷 太郎

(提案の概要)

活動内容を知ってもらうため、また他の団体との交流を図るために市民活動フェスタに参加する。

(目的)

最近活動内容が停滞しているので、活動に賛同してくれる人を増やすため、自分たちの活動内容を知ってもらう。また、他の団体との交流を図ることにより、新たな活動の発見や、他の団体とのコラボレーションも期待できる。

(方法)

来場者に私たちの活動を体験してもらうコーナーと、他の団体とのコラボレーション企画を発表するコーナーの2つに分ける形で市民活動フェスタに参加する。

※提案が認められれば、具体的な内容を調整する。

どういう「目的」でどんな「方法」をとるか、
セットで書くことがポイントです。



この様式を使用したい方は、市民活動推進センターのホームページにご用意しています。→



☆第2回 テーマ 「地域づくりをコーディネートするための「知る力」

講師 鎌ヶ谷市市民活動推進センター プロジェクトマネージャー 加納 基成さん

平成26年12月13日(土) まなびいプラザ

第1回の、「会議の仕方と場づくり」では、「本当の意味での民主的な会議やミーティングのやり方」を学びました。

そして第2回では、地域に求められるコーディネーターとはどんな存在か？を考えるとともに、コーディネーターに必要な、基礎的なスキルなどについて学習しました。



Point① 自分たちの社会をより深く知る！



まずは、普段何気なく過ごしている自分たちの社会をもっと深く知ってもらうことが、コーディネーターには必要です。下図のカードを自由な発想で体系化・グループ化することで、自分たちの暮らす社会を図で表現し、各グループで発表を行いました。

自分たちの暮らす社会のキーワードが書かれたカード（拡大コピーしてお使いください）

公式	NPO	病院	家族	行政	友愛	公共
非公式	NGO	学校	共同体	市場	平等	民間
制度	市民活動団体	コミュニティ	国家	企業	公的	営利
制度外	鎌ヶ谷市	地域	政府	自由	私的	非営利

Point② 日常的な質問力を高める！

前述のグループワークの後、コーディネーターに必要な、日常的な質問力を高めるため、ミニホワイトボードを受講者一人ひとりに配布し、オープクエスチョンのワークを行いました。

オープクエスチョンとは、相手から多くの情報を引き出したい時や、思考を深めたりする際、相手の発言に対して、「どうして?」「どうだった?」など、自由に答えさせる質問を言います。このワークでは、話題を展開させたり思考を深めたりするためのオープクエスチョンを使うことで、地域づくりコーディネーターに必要な「知る力」が高まることを学びました。

今後は、少子高齢化の進行などにより、地域はどんどん深刻な課題と共存せざるをえません。これからますます必要とされるのが地域づくりコーディネーターの存在です。

※オープクエスチョンの事例は裏面にあります。



○質問事例

- 1 ～というところ？
- 2 どんな感じ？
- 3 もう少し詳しく教えてください
- 4 例え？
- 5 具体的にどんな感じ？
- 6 どんなイメージ？
- 7 エピソードを教えてください
- 8 なんでもいいですよ
- 9 ほかに？

○あいづち事例

- 1 うんうん
- 2 なるほど、なるほど
- 3 わかる、わかる
- 4 そうなんだあ
- 5 へえ
- 6 だよねえ
- 7 それで、それで
- 8 そっかあ

かまがや地域づくりコーディネーター養成講座 2014

相互理解を深め、合意を形成していく、最初の一步が、「聞く」力です。

上の事例集をコピーして習慣化することで、質問力を身につけましょう。

この様式を使用したい方は、市民活動推進センターのホームページにご用意しています。→



○講座のお知らせ

さわやかちば県民プラザ 平成26年度ボランティア活動スキルアップ講座「自発的な活動を支える人になろう」
(講師として、鎌ヶ谷市市民活動推進センター プロジェクトマネージャーが登壇します。)

3月1日(日) 14時から さわやかちば県民プラザ 3階大研修室

申込み・お問い合わせ さわやかちば県民プラザ 04-7140-8611

センターからのお知らせ

○センターのホームページが装い新たにリニューアル！

ミーティングテーブルの予約や、団体からの情報発信など、新機能も盛りだくさんです。ぜひ活用してください。

<http://www.collabo-kamagaya.jp/>

QRコードをお使いになれる方はこちら→

